

その除草剤大丈夫???

〇〇モーター古賀店の土壌からもグリホサートという除草剤の成分が検出されました。グリホサートは、世界中で最も使われている除草剤の主成分。1970年代にアメリカで開発されて以降、世界で大量に使い続けられています。発がん性や環境への悪影響が次々と明らかになるにつれ、世界では規制強化が進んでいます。

また、デンマークでは、グリホサートが土壌を通り抜けて地下水を汚染していることが明らかになり、2003年に散布が禁止されています。



逆に日本は規制を緩和、世界の流れに逆行

しかし、日本では、量販店や100円ショップなどでも手軽に除草剤を手に入れることができます。その除草剤のパッケージを見ると「子どもやペットがいても安心」や「食品成分生まれ」と書かれた商品もあります。本当にそうなのでしょうか？グリホサートが主成分でも安心とうたっている商品もあります。



※グリホサートは、ベトナム戦争で使われた枯草剤と同じ成分。

買わないようにすること

グリホサートを含む除草剤について、効果だけでなく危険性もある事を知っていただきたいです。そして、その危険を予防するためには、**買わないようにしましょう。**

ボランティアさん募集
事務所作業やニュース配布など
ニュース配布は、ご近所や散歩
コースの10件程度でもOKです

会員 年会費1,500円
カンパも大歓迎

米、麦、大豆の種子のお話

戦後、食料不足になり、国民を二度と飢えさせないために、1952年『主要農作物種子法』（種子法）が制定されました。種子法があることで、国が予算を付け、各県の農業試験場が種の本原を守り、米・麦・大豆の優良な種子を安定して安価に農家に供給してきました。しかし、農業者の声を聞くこともなくわずか半年ほどの議論で2018年4月に種子法廃止が決まりました。



種子法廃止の影響は？

廃止前

種子

・国が予算をつけ、各都道府県が責任をもって種子の開発、増殖してきた

農家

・農家へ優良な種子の安定した供給
土地にあった種の供給

消費者

・安全な米、麦、大豆を適正な価格で購入

廃止後

種子

・企業は売れる品種を優先して生産
→地域特有の品種は消失

農家

・種子の価格高騰
・遺伝子組み換えの種子の悪化
・小規模農家は生き残れなくなる

消費者

・米、麦、大豆が値上げ
・遺伝子組み換え種子で健康や安全が心配

「種子法」
廃止

を求めていきます」

私たちの食が危ない!

「私たちは福岡県に種子条例の制定

2022年までに 31道県で種子条例制定
しかし、福岡県には種子条例がない!!

